

宝ホールディングス (コード 2531)

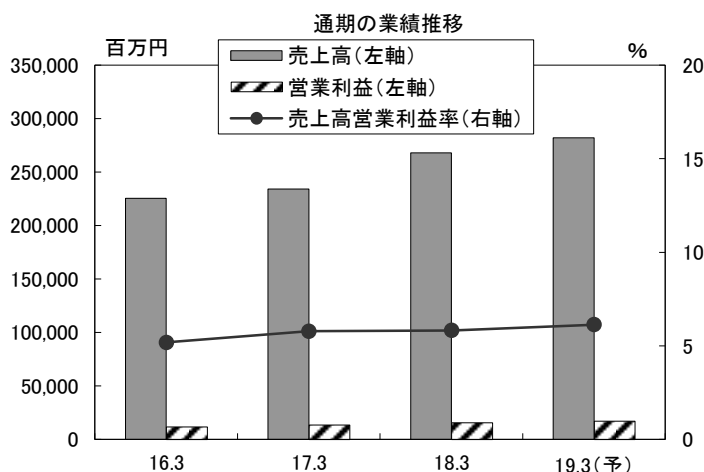
◆通期業績推移(連結) (19.3 予は会社側予想)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.3	225,364	11,680	35.1	12.0	10,373	▲10,864	▲9,482	32,536
17.3	234,193	13,551	42.2	13.0	12,826	16,200	▲2,828	58,765
18.3	268,142	15,612	55.0	16.0	16,265	▲19,916	▲5,570	49,341
19.3予	282,000	17,300	48.1	18.0	—	—	—	—

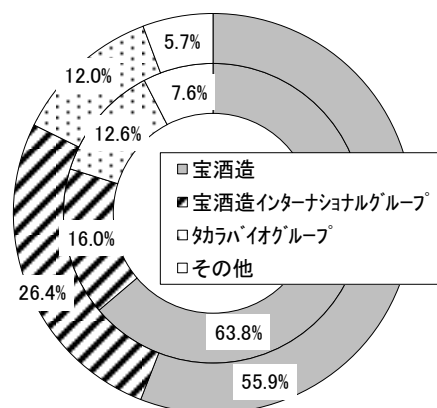
◆各決算期の第2四半期業績推移(連結) (19.3 予は会社側予想)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.3	106,934	3,880	12.6	—	▲908	▲5,677	▲9,067	27,199
17.3	107,509	5,207	15.8	—	2,343	3,088	▲2,625	32,905
18.3	128,855	6,128	17.1	—	3,169	▲17,118	1,931	46,063
19.3予	135,000	7,500	21.0	—	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



セグメント別売上構成比率(内側が17.3、外側が18.3) (その他は調整額との差額)



18年3月期の業績概況…18年3月期の業績は、売上高 2,681億4,200万円 (17年3月期比14.5%増)、営業利益 156億1,200万円 (同15.2%増)、経常利益 160億8,400万円 (同12.1%増)、当期純利益 110億2,900万円 (同30.0%増) となった。宝酒造、宝酒造インターナショナルグループ、タカラバイオグループの3セグメントとも増収増益となり、グループ全体の業績は順調に拡大した。1株当たりの年間配当金は17年3月期実績から3円増の16円となっている。

主なセグメント別の業績では、宝酒造が売上高 1,498億3,900万円 (同0.3%増)、営業利益 55億6,900万円 (同9.8%増)、経常利益 66億8,100万円 (同14.4%増)、当期純利益 83億3,200万円 (同104.2%増)。宝酒造インターナショナルグループが売上高 707億1,700万円 (同88.4%増)、営業利益 43億9,300万円 (同38.0%増)、経常利益 43億3,000万円 (同28.1%増)、当期純利益 28億1,200万円 (同1.6%減)。タカラバイオグループが売上高 323億1,200万円 (同10.0%増)、営業利益 35億5,500万円 (同11.0%増)、経常利益 38億6,100万円 (同7.9%増)、当期純利益 23億3,800万円 (同72.4%増) となった。

宝酒造においては、酒類で焼酎、清酒が減収となった一方、タカラ「焼酎ハイボール」などのソフトアルコール飲料が好調に推移し、増収増益に。宝酒造インターナショナルグループについては、海外での日本食材卸事業や酒類事業が好調に推移し、大幅な増収増益となった。タカラバ

イオグループでは、健康食品関連製品の落ち込みにより医食品バイオ事業が減収となったものの、遺伝子医療事業において前年と同じ売上（5億円）が立ち、研究用試薬や受託サービスの増加したバイオ産業支援事業が好調に推移したことから、増収増益となった。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、18年3月期末の現金及び現金同等物残高は493億4,100万円（17年3月期末比16.0%減）に減少した。営業活動によるCFでは、関係会社株式売却益が33億1,200万円（17年3月期は無し）、たな卸資産の増加額が25億2,000万円（17年3月期比83.0%増）、法人税等の支払額が60億1,700万円（同15.3%増）となった一方、税金等調整前当期純利益が189億300万円（同30.2%増）、減価償却費が64億3,000万円（同24.3%増）、未払酒税の増加額が16億8,500万円（17年3月期は減少額2億6,100万円）となったことなどから、営業活動による収入は162億6,500万円（17年3月期比26.8%増）に増加した。

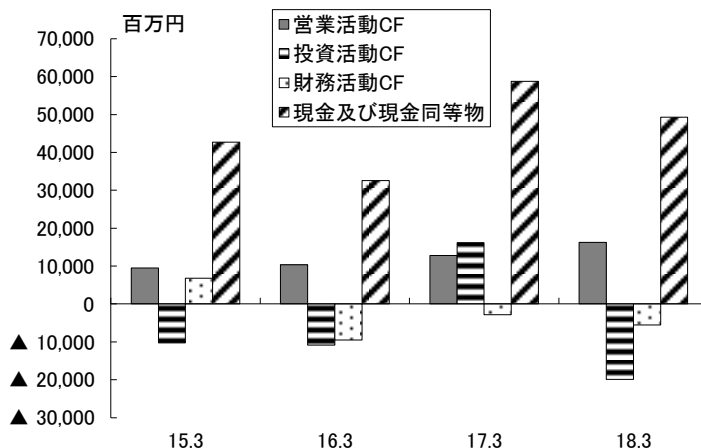
投資活動によるCFでは、有形及び無形固定資産の取得による支出が66億100万円（同22.8%増）、定期預金の預入及び払戻、有価証券の取得・売却及び償還による差引収支が55億9,900万円の支出（17年3月期は204億1,800万円の収入）、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得及び売却による差引収支が

82億4,600万円の支出（同7億4,300万円の収入）となったことなどから、投資活動による支出は199億1,600万円（同162億円の収入）に。財務活動によるCFでは、社債の発行及び償還によって差引43億4,000万円の収入（同無し）が発生した一方、長短借入金の差引純減額が42億1,400万円（同3,600万円）、配当金の支払額が26億1,400万円（17年3月期比8.3%増）、自己株式の取得による支出が20億100万円（17年3月期は100万円未満）、連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出が5億8,500万円（同無し）となったことなどにより、財務活動による支出は55億7,000万円（17年3月期比97.0%増）に増加した。

19年3月期の業績見通し…19年3月期の業績見通しは、売上高2,820億円（18年3月期比5.2%増）、営業利益173億円（同10.8%増）、経常利益179億円（同11.3%増）、当期純利益96億円（同13.0%減）で、1株当たりの年間配当金は18円の予定。

セグメント別の業績見通しでは、宝酒造が売上高1,540億円（同2.8%増）、営業利益61億円（同9.5%増）、経常利益66億円（同0.2%減）、当期純利益44億円（同47.2%減）。宝酒造インターナショナルグループが売上高780億円（同10.3%増）、営業利益49億円（同11.5%増）、経常利益50億円（同15.5%増）、当期純利益28億円（同25.5%増）。タカラバイオグループが売上高368億円（同13.9%増）、営業利益50億円（同40.6%増）、経常利益52億円（同34.6%増）、当期純利益31億円（同32.8%増）となっている。

通期のキャッシュ・フロー(CF)推移



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。